

YOKOHAMA MICE Challenge 実施報告書

横浜市にぎわいスポーツ文化局

MICE 振興課

令和6年11月1日

目次

1. 趣旨	1
(1) 事業の背景	1
(2) 事業の狙い	1
(3) 令和6年度の進め方	1
2. 実施概要	2
(1) 企画運営について	2
(2) 企画のターゲットとした国際会議について	2
3. 実施経過	3
4. 実施内容	5
(1) オリエンテーション	5
(2) MSEAS 開催支援	7
(3) MICE 見学会／ホテル見学会	9
(4) 生物多様性国際ユース会議支援	10
5. まとめ	12
(1) 総括・所感	12
(2) 次年度に向けた動き	12

1. 趣旨

(1) 事業の背景

横浜市は中期計画 2022～2025 において、「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」を基本戦略に据え、次世代育成等に力を入れて施策を推進しています。また、グローバル MICE 都市として、国内外の会議に対する誘致活動や会議開催者への開催支援にとどまらず、地域・大学と連携した取組や街のにぎわい創出を目的とした周遊施策など、幅広い取組を行っています。

このような中で、本市の次世代育成の取組の推進及び地域との連携、さらには MICE 産業活性化を目的として、YOKOHAMA MICE Challenge をスタートさせました。

(2) 事業の狙い

- ・ 学生のアイデアによる企画の実施

MICE の開催支援において、従来の枠にとられない魅力的なプログラムを開発するために、学生の柔軟な発想や行動力、若者ならではの強みを活用して、事業を実施しました。

- ・ 次世代人材育成

本プログラムは、単に決められたことを学生が実施するものではなく、学生の主体的な発想と積極性を重視して、事務局はできる限り脇役に徹して事業を実施してきました。他方で、メールのやり取りや事業者との交渉、会議の進行など、将来学生が社会に出ても役立つような実務的経験を積めるよう、事務局からアドバイスを行いました。

- ・ MICE 産業の活性化

旅行業やイベント運営と比べて知名度の低い MICE 業界について、その魅力や奥深さを知ってもらうため、第一線の実務に携わる方々にもレクチャーをお願いしました。特に MICE 業界内では人材の不足が云われていることもあり、学生の就職活動や将来のキャリアパスの一つとして、MICE 業界を示せるようなプログラムとしました。

(3) 令和 6 年度の進め方

令和 6 年度は翌年度以降の展開に向けたパイロット事業として、横浜市立大学観光マネジメント研究室（有馬貴之ゼミ）と協力のうえ、事業を実施しました。学生が参加するためのインセンティブとして、本事業への参加を単位化する方法を大学側から提案いただき、最終的にはインターンシップ実習（国際教養学部の専門科目）と位置付けました。それにより本企画には 3 年生 4 名の参加が得られています。

2. 実施概要

参加者	横浜市立大学の学部生 4 名
事務局	横浜市にぎわいスポーツ文化局 MICE 振興課（直接執行事業）

※ 令和 6 年度はパイロット実施のため、横浜市立大学に絞り学生を募集しました

(1) 企画運営について

本企画については、あらかじめ MSEAS 及び生物多様性国際ユース会議の 2 つの会議をターゲットとして定め、MSEAS では、レセプションにおけるアトラクションを、生物多様性国際ユース会議ではエクスカージョンの企画運営の実施を、ターゲットとしました。事前のターゲット設定以外の部分については、学生の主体性を重視し、学生側からやりたいことを募り、企画から当日の運営までの一連の流れを担って頂く形式としました。事務局については、会合のセッティングや事業者・会議主催者との調整、必要備品の確保など、周辺業務を実施するといった後方支援に限り、関与を行いました。

事前打ち合わせについては学生内での持ち回りで司会・議事録担当を決めて運営を行うほか、事務局や事業者とのフォーカルポイント（渉外担当）を決め、主体的に事業を運営していただきました。

(2) 企画のターゲットとした国際会議について

ア MSEAS 2024 (Marine Socio-Ecological Symposium：海洋社会生態シンポジウム)

主 催：PICES（北太平洋海洋科学機関）

共 催：横浜市

日 時：令和 6 年 6 月 3 日（月）～7 日（金）

参加者：世界各国の研究者、海洋関係者、行政官等

内 容：海洋環境の持続的な利用について、PICES 加盟国（日本・アメリカ・カナダ・中国・韓国・ロシア）の科学者、行政官等が議論を行う。

イ 生物多様性国際ユース会議 横浜 2024

(International Youth Conference on Biodiversity, Yokohama 2024)

主 催：GYBN (Global Youth Biodiversity Network)

共 催：国連生物多様性条約事務局、環境省、横浜市

日 時：令和 6 年 8 月 25 日（日）～31 日（土）

参加者：世界各国のユース 130 名程度

内 容：生物多様性の世界目標達成に向けて、ユースによるアクションプランを検討する

3. 実施経過

■ 令和5年度

2月6日(火)	横浜市立大学にて、国際会議参加プログラムの打合せ 【参加者】横浜市立大学（教員及び事務局）、横浜市政策局・にぎわいスポーツ文化局
3月12日(火)	横浜市立大学にて、前回からの進捗について打合せ 【参加者】横浜市立大学（教員及び事務局）、横浜市政策局・にぎわいスポーツ文化局
3月27日(水)	横浜市役所にて、ザ・カハラ・ホテル&リゾート横浜様と打合せ 【参加者】ザ・カハラ・ホテル&リゾート横浜様、横浜市にぎわいスポーツ文化局

■ 令和6年度

4月5日(金)	横浜市立大学にて、今後の進め方について打合せ 【参加者】横浜市立大学（教員）、横浜市にぎわいスポーツ文化局 YCVBにて、企画概要説明及び協力依頼 【参加者】YCVB、横浜市にぎわいスポーツ文化局
4月18日(木)	横浜市立大学の学生が横浜市役所来訪。企画の進め方について打合せ 【参加者】横浜市立大学（学生）、横浜市にぎわいスポーツ文化局、YCVB
5月6日(月)	<u>オープニングセッション</u> 【場 所】横浜市立大学みなとみらいキャンパス 【参加者】横浜市立大学観光マネジメント研究室所属の学生 他 ※ 詳細は4(1)参照
5月8日(水)	MSEASにおける企画について、オンライン打合せ 【参加者】横浜市立大学（学生）、横浜市にぎわいスポーツ文化局
5月27日(月)	MSEASにおける企画について、必要物品の準備・調整等を横浜市立大学で実施 【参加者】横浜市立大学（学生）、横浜市にぎわいスポーツ文化局
6月3日(月)	<u>MSEAS レセプション支援</u> MSEASのレセプションの場において、観光案内等のブースを設置 【場 所】大さん橋ホール 【参加者】横浜市立大学（学生）、横浜市政策局・にぎわいスポーツ文化局

YOKOHAMA MICE Challenge 報告書
横浜市にぎわいスポーツ文化局 MICE 振興課

	※ 詳細は 4 (2)参照
6月20日(木)	<p><u>国際会議見学会</u> 横浜市立大学観光マネジメント研究室の学生を対象に、ザ・カハラ・ホテル&リゾート横浜様及び国際会議 (SPIE) の見学会を実施</p> <p>※ 詳細は 4(3)参照</p>
7月3日(水)	<p>三溪園下見及び打合せ 【参加者】横浜市立大学 (学生)、横浜市にぎわいスポーツ文化局、(公財) 三溪園保勝会</p>
8月6日(火)	<p>ユース会議のエクスカージョン企画に向けて、会議運営事業者等とオンラインにて打合せ 【参加者】横浜市立大学 (学生)、横浜市にぎわいスポーツ文化局、株式会社 JTB 横浜支店</p>
8月28日(水)	<p><u>生物多様性国際ユース会議支援</u> 生物多様性国際ユース会議のエクスカージョンの運営を実施 【場 所】三溪園 【参加者】横浜市立大学 (学生)、横浜市にぎわいスポーツ文化局、株式会社 JTB 横浜支店</p> <p>※ 詳細は 4(4)参照</p>

4. 実施内容

(1) オリエンテーション

①. 開会にあたって

開会にあたって、横浜市にぎわいスポーツ文化局 MICE 振興課 誘致等担当課長 中嶋浩章より、挨拶が行われました。



②. 今回のプログラムについて

YOKOHAMA MICE Challenge の全体像について、横浜市にぎわいスポーツ文化局 MICE 振興課 誘致等担当係長 津留健太より、説明が行われました。



③. 横浜の観光・MICE について

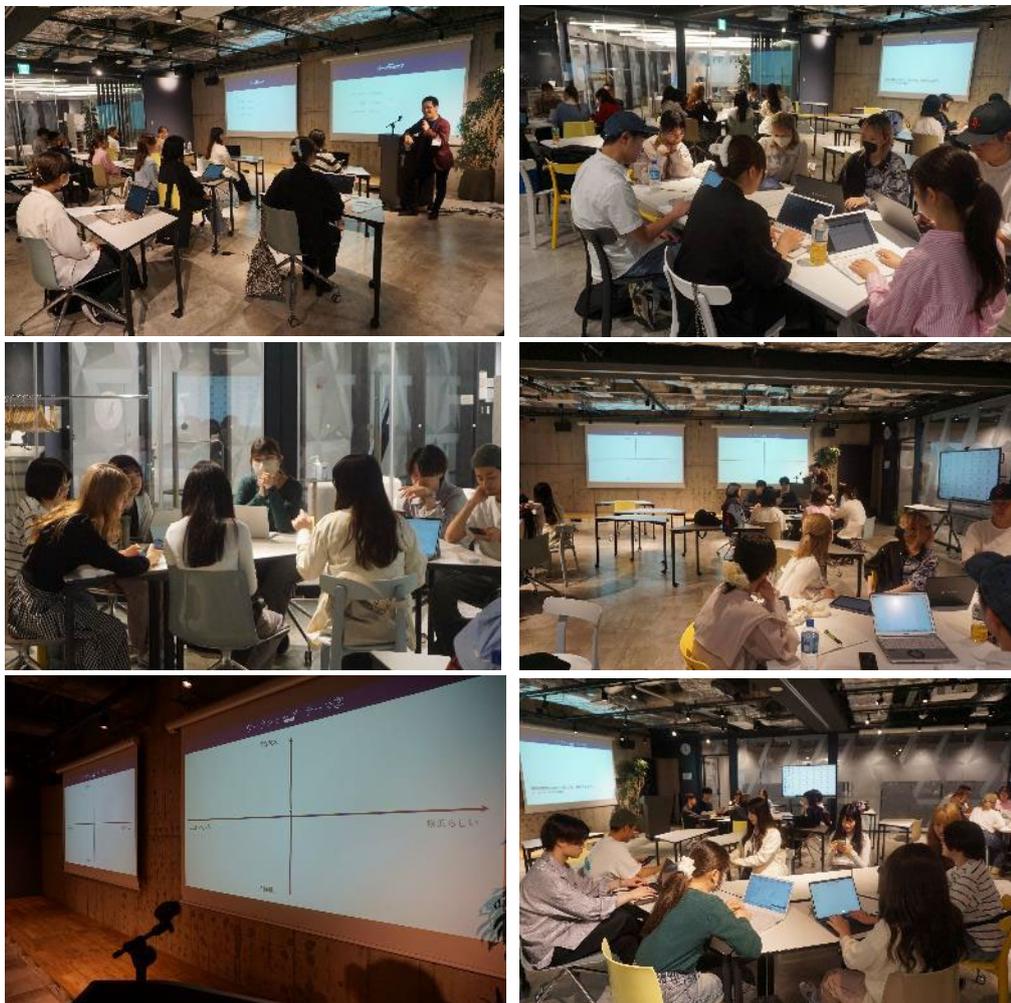
横浜の観光・MICE について、(公財)横浜市観光協会 企画課 河東宗平様より、説明を頂きました。



④. MSEAS に向けて

MSEAS での観光案内実施に向けて、「横浜の観光地」に関するワークショップ

を、横浜市にぎわいスポーツ文化局 MICE 振興課 誘致等担当係長 津留健太より実施しました。



⑤. 講評

横浜市立大学有馬准教授より、全体の講評が行われました。



⑥. 事務連絡・閉会

国際会議見学会等に関する事務連絡が行われ、閉会しました。

(2) MSEAS 開催支援

日時：6月3日（月） 18:00～20:00

概要：MSEAS は PICES の開催するシンポジウムであり、本市では政策経営局経営戦略課（旧政策局政策課）が所管となり開催を支援しています。MSEAS 開催に当たり、主催者及び横浜市によるウェルカムレセプションが開催される運びとなり、本市としても会場費の負担等の業務を行うこととなりました。当該レセプションには 200～300 名程度の研究者、行政官等が参加する見込みであるものの、飲食物の提供以外に、特にアトラクションは用意されていなかったため、YOKOHAMA MICE Challenge に参加した学生により、参加者向けの観光案内企画を検討してもらい、レセプションの場において、学生主体により当該企画の運営を行いました。

企画内容：

- ① ガチャガチャ及び缶バッジを利用した横浜の観光スポット案内
参加者に対して横浜の観光スポットを効果的に PR すべく、市内各所の風景を撮影した缶バッジを自主製作し、配布しました。学生自ら、山下公園や赤レンガ倉庫、マリンタワー等に赴き撮影を行い、缶バッジ作成キットを用いて 100 個程度の缶バッジを作成しています（作成キット及び缶バッジについては、事務局にて調達）。



- ② 横浜に関するプレゼンテーション
参加者に対して、横浜及び横浜と海の関係に関するプレゼンテーションを行いました。内容については学生がリサーチ・構成を行い、事務局では英文の校正・ネイティブチェックのみを実施しました。
- ③ 横浜観光 役に立つフレーズ集の配布
横浜を観光する際に役に立つフレーズ集を作成し、配布を行いました。内容については学生が検討、作成を行い、事務局では英文の校正・ネイティブチェックのみを実施しました。また、観光案内の一環として横浜市内のマップ等を（公財）横浜市観光協会より入手し、当日配布を行いました。

■ MSEAS 当日の運営の様子



(3) MICE 見学会／ホテル見学会

日時：6月20日（木） 13:30～16:00

概要：学生にとってなかなか身近に接することのない MICE を感じてもらうため、実際の国際会議の現場や会議施設、さらにはホテルの見学会を実施しました。

参加：横浜市立大学観光マネジメント研究室 有馬准教授及び学生9名

① ホテル見学会

ザ・カハラ・ホテル&リゾート横浜様のご協力のもと、同ホテル内の見学会を行いました。同ホテルの鈴木様により館内を丁寧にご案内いただき、ホテル業界の現状のお話しも交えながらの見学会に、学生からは様々な質問が寄せられました。



② 国際会議見学会

パシフィコ横浜で開催されていた国際光工学会様の国際シンポジウム SPIE ASTRO 2024 を見学させて頂きました。当日は国立天文台 家名誉教授により会議の概要をご説明頂いたほか、パシフィコ横浜の向井様より、会場・施設のご案内も頂きました。



(4) 生物多様性国際ユース会議支援

日時：8月28日（水） 15:00～17:00

概要：8月25日（日）から31日（土）にかけ、横浜市で生物多様性国際ユース会議が開催されました。同会議は世界中のユース約130名が集い、生物多様性の世界目標（昆明・モントリオール生物多様性枠組）実現のためのアクションプランを検討する国際会議です。会議参加者は26日（月）から31日（土）まで、上郷・森の家に宿泊し、合宿形式で議論を行ない、なか日である28日（水）には、気分転換もかねてエクスカージョンを実施しました。

エクスカージョンの内容としては、28日（水）の午前中に、参加者全員でイオンモール多摩平の森へ行き、午後は4グループに分かれ、横浜市内の観光施設等を見学するというものでした。そのうちの1グループのエクスカージョンコースについて、YOKOHAMA MICE Challenge 参加の学生による企画・運営にて実施しました。

参加者を4グループに分けるに当たり、各コースでフライヤーを作成し、参加希望を募る形式としました。なお、フライヤーについても学生が作成しました。

参加：ユース会議参加者及び関係者

企画内容：

① お茶体験

（公財）三溪園保勝会様及び表千家同門会様のご協力を得て、三溪園外苑にある鶴翔閣にて、茶道の歴史を聞き、お茶を点てる様子を鑑賞しながらお茶とお菓子を楽しみました。

② 園内散策

お茶体験後はユース会議参加者の自由行動とし、園内散策を実施しました。YOKOHAMA MICE Challenge 参加の学生は適宜参加者からの質問対応を行うほか、全体の進行管理等を行いました。

■ ユース会議エクスカーショント当りの様子



5. まとめ

(1) 総括・所感

本年度はパイロット実施であったため、事務局が目の届く範囲で、比較的小規模に実施したことは、結果として正解であったと考えます。事業開始前はどのような企画が出てくるのか全く未知数であったものの、参加学生の皆さんは思った以上に積極的に企画へ関わり、事務局側の想定しなかったようなアイデアと行動力でプログラムを成功させていきました。

会議主催者や施設、関係者からの評価も非常に高く、本取組を実施したことによる効果は非常に大きかったと考えます。

(2) 次年度に向けた動き

令和6年度のパイロット実施を鑑みるに、来年度以降の本格実施の可能性は十分あると考えます。その場合、対象とする学生を横浜市立大学に限定せず、広く市内の大学生に門戸を開くこと、また、人数規模も増やし、より多くの学生に参加していただくことを検討する必要があります。